

衣替えの参考に!

自宅でできる 洋服&靴の お手入れ法

洋服のお手入れのコツ

ウール製品は陰干しが基本

冬物をしまう際に気をつけたいのが、汚れのチェックです。『ドンドンダウン オン ウェンズデイ』などの店舗で古着の買取・販売を行っている(株)ドンドンアップの伊藤綾さんは、「汚れが付いたまま保管すると、そこが酸化し、虫食いの原因になります。しかも虫は、カシミア製品やシルク製品など上質の素材を好みますので、しっかり汚れを落としてから保管していただきたいですね」とアドバイスします。

最近洗濯機や洗剤の機能が高

まって、ウール製品も自宅で洗濯できるようになっています。ただし、干し方には注意が必要。まず、直射日光に弱いので陰干しすること。もう一つは型くずれを防ぐため、平らな台の上などに広げた状態で干すことです。

またウール製品を洗う際に、柔軟剤として酢を使っても良いでしょう。量は水2リットルに対して150~200ccが目安。酢には他にも色落ちを防いだり、黄ばみを落とす効果があります。においが気になる人は、クエン酸で代用してもかまいません。

肩幅に合ったハンガーを使う

薄手のコートや上着なら、自宅でも洗濯ができます。基本的には洗濯機や洗剤の説明書どおりに洗濯し

てかまいませんが、綿素材で色落ちが気になる場合は、塩を加えても。量は水2リットルに対して大さじ2が目安です。

干す際には、やはり型くずれを防ぐために肩幅に合ったハンガーに掛けること。さらにその後クローゼットなどに保管する際には、ボタンやファスナーなどを開けた状態にし、通気性を良くしましょう。さらに防虫剤の使用も忘れずに。防虫剤のガスは空気より重いので、衣服よりも上の位置に置くのがポイントです。

上着類を保管する際には、ボタンやファスナーなどは開けた状態にし、通気性を良くするのがポイント

7.ラズ
α情報

ゴムの「伸び」を防ぐためには

冬物とは限りませんが、長袖のTシャツや靴下などゴムの入った衣類の洗濯のコツも、伊藤さんに教えていただきました。



Tシャツの襟のゴムは、洗濯機で脱水する際にからまって伸びるといわれています。そこで写真のように襟部分を輪ゴムでしばってから洗濯し、終わったら輪ゴムを取って広げ、たたいて輪ゴムによるシワを伸ばしてから干します。ハンガーに掛ける際にも襟部分は決して伸ばさないよう、また上着同様に肩幅に合った



(株)ドンドンアップ営業本部 教育部の伊藤綾さん。「防虫剤として、虫が嫌いなヒノキやスギなどの芳香剤を使ってもいいですよ」と女性らしいアドバイス

ハンガーに掛けるよう、気をつけてください。

靴下は、手洗いまたはネットに入れて洗濯を。保管の際には、重ねて片方のゴムの中に入れるのではなく、写真のように重ねて折るだけにしましょう。その方がゴムが伸びにくく、長持ちします。



Tシャツを干す際に肩幅に合わないハンガーを使うと、型がくずれてしまいます(写真右)。肩幅に合った、できればスーツ用などの幅の広いハンガーを使う(写真左)と安心です